

公益財団法人

京都府国際センター

Kyoto Prefectural International Center

NEWS

目次

- 特集!災害時の外国人支援 ~多文化共生の地域防災づくり~ … 1~2
- 府内の市町村国際化協会 京丹後市国際交流協会、城陽市国際交流協会 … 3
- JICA京都デスクの活動紹介 …………… 4
- 京都府国際センターからのお知らせ …………… 4

Vol.101

2024年 春号

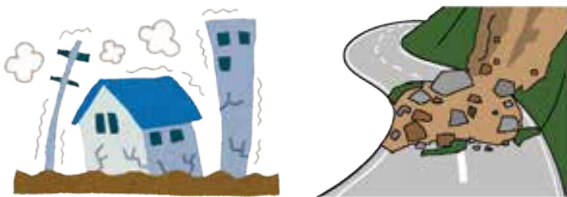
特集 災害時の外国人支援 ~多文化共生の地域防災づくり~



京都府は南北に長く、海に面した地域や山間地域も広く存在します。府内で大規模な災害が発生した場合、



道路等の交通インフラが寸断されると、外部からの支援が到着するまで日数がかかることも考えられます。



災害という困難な状況を地域社会が共に力を合わせて乗り越えるために、最も重要なのは「**住民同士のつながり**」です。



一方で、府内に暮らす外国人住民は年々増加し、国籍や在留資格も多様化してきています。外国人が働く企業も大きく増えて、**過去最高**となりました。

府内の外国人住民数
74,664人
前年比 7,308人 (10.8%) 増
(2023年12月末現在、京都府国際課)

外国人雇用事業所数
5,237ヶ所
前年比 453ヶ所 (9.5%) 増
(2023年10月末現在、京都労働局)



災害発生時に外国人住民は、「言語」、「文化・習慣」の違いなどの壁により、適切な避難行動や必要な支援を受けることができず、**孤立する恐れ**があります。



安全安心な地域を作っていくためには、日本人住民だけではなく、外国人住民や地域の企業とも一緒になって日頃から生活安全、防災対策などを充実させていくことが大事です。



当センターでは、府内の市町村・国際化協会とともに災害時外国人支援の体制づくりに取り組んでおり、外国人や支援者向けの研修会・訓練などを行っています。今号では、地域での防災体制の強化に向けて当センターや府内の各地域と企業が連携した防災の取り組みをご紹介します。

府内市町村での取り組み

当センター、府内の地域と企業が連携した防災への取り組みを紹介します。

長岡京市 × 村田製作所

～外国人社員向け防災オリエンテーション～

日時：2023年10月11日

対象：村田製作所に勤務する外国人従業員

実施内容：台風や洪水、地震など、日本で起こる可能性がある災害について、その被害と必要な備えなどを学習

ポイント

- ・長岡京市・京都府国際センター・JICA 関西が協力
- ・警報や避難情報の種類とそれぞれの危険度を学習
- ・多言語で情報取得ができるサイト・アプリの紹介



長岡京市の防災マップを活用し、参加者の住んでいる地域に起こりうる災害についても確認できた。



担当者

説明後には参加者から質疑もあり、防災についての関心の高さがうかがえた。

鶴見製作所（八幡市）

2023年8月～11月

～外国人防災リーダー養成・避難訓練～

養成講座 - 第1回 (8/29)：外国人従業員全員に、八幡市で起こり得る災害等の講義を実施

- 第2回 (10/12)：防災リーダー候補に、マイタイムライン（防災行動計画）の作成や防災リーダーとしての心構え等の講義を実施

避難訓練 (11/18、場所：八幡市立さくら小学校)

- ①リーダーの指揮の下、外国人従業員が自分たちの力で避難場所への避難を実施
- ②市の自主防災推進協議会の防災訓練に合流し、地域の方々との避難所用資機材の取扱いや地震車体験等の訓練を実施

ポイント

- ・連携：外国人受入企業、JICA 関西、京都防災士 works、京都府国際センター、八幡市、八幡市自主防災推進協議会
- ・企業から「災害発生時に避難等の中心を担う外国人防災リーダーの養成と、自宅から避難場所への避難訓練を実施したい」との発案を受け、関係機関協力の下、市も参画



マイタイムライン作成



避難所への避難の様子



防災訓練の様子

災害発生時の対応方法を勉強できてよかった。

このような訓練をたくさん実施してほしい。

外国人参加者



ベトナムの方たちが積極的に動いてくれて助かった。

いざ災害が起きたときも一緒に取り組みたい。

市自主防災推進協議会参加者



亀岡市 × 府総合防災訓練

～多言語表示を意識した避難所づくり・避難訓練～

日時：2023年9月3日

場所：京都府総合防災訓練の避難所設営・運営訓練会場となった亀岡市立保津小学校

実施内容：市内の企業から6人の技能実習生と担当者が参加、地元自治会の方々が避難所スタッフとして外国人避難者の受付を体験

ポイント

- ・避難所内に多言語表示シート（5ヶ国語）を設置
※日本語・英語・中国語・ミャンマー語・ベトナム語・ネパール語（亀岡市で使用頻度の高い言語）



避難所の設備について、職員が「やさしい日本語」で説明



外国人参加者

子どもや障がい者のための設備が、避難所にあることに驚いた。



外国人避難者の避難所受付体験



自治会の方

外国人は英語という認識だったが、英語が通じない外国人への対応の難しさを知った。

宮津市 × グンゼ宮津工場

～身近な危険について学ぶ～

日時：2023年11月4日

内容：市内で暮らす外国人を対象とした身近な危険（交通・火災等）への研修

参加者：グンゼ宮津工場で勤務する技能実習生約30人

ポイント

- ・市だけでなく他機関と協力し実施
宮津警察署：自転車での交通ルール
宮津与謝消防組合：緊急時の通報、消火器の使い方等



実際に自転車に乗り、交通ルールを確認



参加者

自転車に乗るときに安全確認をしっかりしたい。

研修で学んだことを日本での生活に活かしたい。



参加者



水消火器を使い、初期消火を体験

笑顔もありつつ、真剣に取り組んでいた。今後もこういった研修を続けていきたい。



担当者

京都府内の市町村国際化協会の紹介

▶京丹後市国際交流協会 設立15周年 事務局長 麻田友子さんにお話を伺いました。

Q1. 協会の設立のきっかけや目標について

2006年に中国安徽省亳州市との友好都市締結をきっかけに、当初は、姉妹都市との交流の受け皿として、また、市民と諸外国の人々が幅広い分野において国際交流を推進することを目的に2008年に設立されました。

Q2. 当初と比べて、地域の状況や協会の取り組みにどのような変化がありましたか？



ネパール出身の講師などと料理やダンスを楽しむ「ネパールNight」の様子

設立翌年に日本語教室をスタートしました。以降、会員以外の市民の方も参加いただけるイベントを多く設け、子どもから幅広い年齢まで、年間のべ1,200人くらいの方がイベントに参加しています。

近年では、市内の他団体の事業においても多くのお声かけをいただき、外国人市民が参加しやすいよう、協会が繋ぎ役となっています。

設立翌年に日本語教室をスタートしました。以降、会員以外の市民の方も参加いただけるイベントを多く設

Q3. 新しく見えてきた課題やこれから取り組みたいことを教えてください。

外国人市民の多国籍化、在留資格の多様化や長期滞在化などで、これまでより外国人市民が生活しやすいようきめ細やかなサポートと、地域との繋がり作りが大きな課題と考えています。

外国人市民が本市で過ごしている様子も、それぞれの言語でTikTokやInstagramに多くアップロードされ、世界中に発信されています。本市の自然の豊かさや食材の豊かさを知ってもらうことも、今後も継続して行っていきたいと考えています。

さらには、地域との繋がりを深め、「京丹後に住んで良かった」「これからも暮らしていきたい」という地域愛が育まれるよう、日本人市民へ、お互いの文化を理解し、人権が尊重されるよう多文化共生のまちづくりへの理解促進を図っていききたいです。普段は外国人と関わるのが少ない世代や団体などとの連携強化にも取り組んでいきたいと思っています。



外国人市民と一緒に毎年ビーチクリーンを実施

▶城陽市国際交流協会 設立30周年

事務局長 大久保雅由さんにお話を伺いました。

Q1. 協会の設立のきっかけや目標について

協会の設立は1993年です。城陽市の姉妹都市盟約締結が1991年に大韓民国慶山市と、1995年にアメリカ・ワシントン州バンクーバー市となされ、両市をはじめとする諸外国の都市と「草の根交流」を推進するために協会が設立されました。姉妹都市検討のために1988年に設置された「城陽市国際交流懇話会」が母体となったそうです。

Q2. 当初と比べて、地域の状況や協会の取り組みにどのような変化がありましたか？



災害時外国人支援に関する協定を締結した奥田市長と協会長(当時)

日本大震災が起こり、災害時外国人支援の取り組みも始めました。

2017年には城陽市と協会が「災害時における外

2011年度に京都府国際センターの協力を得て日本語支援ボランティア養成講座を実施して、日本語教室運営事業をスタートしました。同年には東

国人支援に関する協定」を締結するなど、多文化共生に関する事業が増えたことが大きな変化です。

Q3. 新しく見えてきた課題やこれから取り組みたいことを教えてください。

新型コロナウイルス感染症への対応がひと段落して2022年度末から姉妹都市の交流事業が再開されました。姉妹都市の宿泊施設がコロナ禍を経て変わっていたり、ウクライナ侵攻などの影響や円安で航空券が高騰するなど、新しい環境での姉妹都市交流にも様々な検討が必要となっています。

多文化共生に関しては、この10年あまり外国人労働者の増加に伴い、家族滞在、特に子どもの所属・日本語習得・進学などの支援や相談があります。保健センターや産婦人科から外国人への対応の問合せも出てきました。状況にあわせて外国人住民が生活者として暮らしていくための対応を進めたいと思います。



2023年3月に来訪したバンクーバー市訪問団との交流

JICA京都デスクの取り組み

こんにちは！JICA京都デスクの西川です。

普段は京都府国際センターの中でお仕事をしていますが、イベントや国際協力出前講座などであちこちに向くことも多いです。京都デスクの活動をいくつかご紹介します。

①夏はララマルシェ、秋は府民交流フェスタに出展

JICAは開発途上国への国際協力を行う機関ですが、京都デスクでは府民に途上国の様子やJICAの活動を知ってもらうために、いろいろなイベントへ出展しています。民族衣装の体験やアフリカ布を使ったワークショップなども行っています。楽しみながら途上国の開発課題や国際協力について興味を持ってもらえると嬉しいです。

②学校での国際協力出前講座

国際理解教育／開発教育、キャリア教育、SDGs関連の授業で、JICA海外協力隊やJICAの活動についてお話しています。

途上国で活動をした経験者や、日本で学ぶ途上国からの研修員がお話することで、国際社会に生きる子どもたちが、広い視野で物事を考えることができるよう支援しています。また、途上国とオンラインで繋いだ講座もあります。

出前講座についてはこちら

<https://www.jica.go.jp/cooperation/see/delivery/index.html>



アフリカ布を使ったワークショップ



国際協力出前講座の様子

JICA京都デスクについてはこちら

<https://www.kpic.or.jp/links/jica.html>



京都府国際センターからのお知らせ

●京都府多言語生活相談(23言語)

外国人住民、外国人住民と関わりのある府民の方など、どなたでも無料でご利用いただけます。電話、来所、メールで対応。秘密は守ります。

☎075-681-4800(通話料必要)

🕒10:00-17:00(休館日除く)

✉soudan@kpic.or.jp(日本語・英語のみ)

<https://www.kpic.or.jp/soudan/tagengo.html>



●外国人のためのにほんご教室[入門・初心者向け]

▶月・木【基礎クラス】 受講料6,000円/20回

2024年5月9日(木)～7月18日(木) 10:30～12:45

クラス I (場所: 京都府国際センター)、クラス II (オンライン)

▶土曜【会話クラス】 受講料4,000円/10回

2024年5月18日(土)～7月20日(土) (オンライン)

クラス I 10:00～12:15、クラス II 13:00～15:15

※インタビューの結果、受講できない場合があります。

<https://www.kpic.or.jp/nihongo/kyoshitsu.html>



～賛助会員を募集しています～

当センターが実施する様々な地域国際化事業や団体運営の財源に充てるため、趣旨にご賛同いただける皆さまを対象に賛助会員を募集しています。

【会費】個人会員/年額 1口 3,000円
団体会員/年額 1口 10,000円

【特典】・センター情報誌など定期刊行物の送付
・当センター主催の各種講座等への優先参加
・当センター内の有料スペースを会員料金で利用可能
・他団体との提携による会員特典

入会方法など詳しいことはHPをご覧ください。

www.kpic.or.jp/about/sanjo.html



パスポート写真撮影のご案内

パスポートの規格に合った写真を責任を持って撮影します。

【場所】京都駅ビル8階

(京都府旅券事務所の隣に併設)

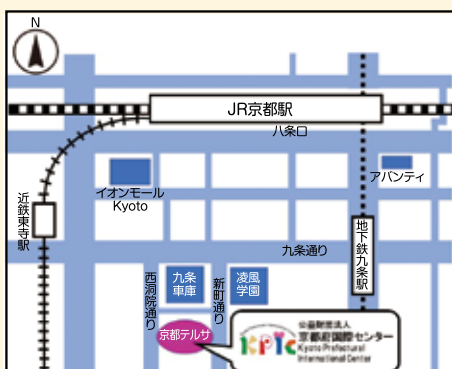
【営業時間】月曜日～金曜日 9:00～16:30

【撮影料金(税込)】

2枚 1,800円/4枚 2,300円/6枚 2,800円

【お問い合わせ】

TEL 075-342-5002



公益財団法人京都府国際センター

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ東館3階

Tel : 075-681-2500

Fax : 075-681-2508 E-mail: main@kpic.or.jp

www.kpic.or.jp

facebook www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間/午前10時～午後6時

休館日/火曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

公益財団法人京都府国際センター NEWS Spring 2024 春号 第101号

編集・発行/公益財団法人 京都府国際センター Kyoto Prefectural International Center

